

会報 第1号 2003年7月



赤煉瓦倶楽部半田会報
発行人:長谷川寛子会長
会報1号編集担当:出口久浩
〒475-0928
半田市桐ヶ丘 3-11-13
(建築工房副風庵)
TEL/FAX:0569-21-5959
E-mail redbrickhanda@yahoo.co.jp

Topics

- ★ 02'一般公開&市民フェスティバル
- ★ 研修会 (紺屋海道)
- ★ 名鉄ハイキング
- ★ 研修会 (明治村バスツアー)
- 特集— 妻木頼黄とはどんな人

大成功!

「一般公開及び市民フェスティバル」



2002年8月24日(土)・23日(日)、凍結状態となっていました旧カプトビールの赤煉瓦建物の一般公開及び各種イベントが盛大に行われました。倶楽部に企画・運営の話があったのが4月下旬、企画提案し正式決定が6月中旬。

ものづくり関係者、全国赤煉瓦ネットワークの皆様にご協力願いをさせていただいたのが6月末。そして、企画に添ってボランティアの方々が参加を表明していただき形が見えてきたのも同時期。

それから本番の8月24日、25日。

初めてのことばかり。大きな壁にぶつかりどおし。

大きなイベント準備がこんなにも大変なことなのか。

今回携わってくれたスタッフ全員そう思った事でしょう。

しかし、結果、半田市民を中心に遠方から多数の方にお越しいただき、当倶楽部の推計で2日間で1.2万人の方にご来場いただきました。

当初せいぜい2日間で2~3千人と見込んでいましたが、開門を待ちきれずにお年寄りがドヒャーと入ってきました。

それからというものの人の波が途絶えることはありませんでした。

初日18時時点で推定5千人。18時30分からは隣の住宅展示場でジャズコンサート(お金がなくプロ呼ばず。でも尺八の名手和尚とピアノ、ドラムの変った演奏)、ライトアップされた赤煉瓦建物をバックにお客さんは最後まで真剣に聴いておられ、大変満足された様子でした。

2日目も初日をはるかに上回る人出。全国赤レンガコーナーの資

2002年

- 6/8(土) クリーンボランティア
- 6/24(月) 事務局会議(永田邸)
- 7/6(土) 定例会
(半田ステーションホテル)
- 7/28(日) 倶楽部総会(建物内)
- 8/23(金) フェスティバル準備
- 8/24(土) 25(日)
赤煉瓦フェスティバル&一般公開
- 9/3(火) 事務局会議(永田邸)
- 9/7(土) フェスティバル打ち上げ
(半田ステーションホテル)
- 10/5(土) 6(日) 半田山車祭り時一般公開
- 10/13(日) 14(月) 赤煉瓦ネットワーク呉大会
(参加:馬場、竹内)
- 10/24(木) 事務局会議(永田邸)
- 11/2(土) 定例会(半田ステーションホテル)
- 11/26(火) 事務局会議(永田邸)
- 12/1(日) 紺屋海道探索&國盛酒の文化館試飲
- 12/7(土) 定例会(半田ステーションホテル)

2003年

- 1/11(土) 大阪市公会堂&白鹿資料館探索
(赤煉瓦ネットワーク関西地区調査)
- 1/25(土) 2003年度倶楽部方針策定会議
(成岩公民館)
- 2/17(月) 事務局会議(永田邸)
- 2/26(水) 事務局会議(永田邸)
- 3/1(土) 定例会(半田ステーションホテル)
- 3/15(土) 建物内清掃(スーパー)
- 3/16(日) レンガスタッフ会議
&クリーンボランティア
- 3/24(月) 事務局会議(永田邸)
- 3/29(土) 名鉄ウォーキング`準備
&クリーンボランティア
- 3/30(日) 名鉄ウォーキング`本番
- 4/30(水) 事務局会議(永田邸)
- 5/6(火) 事務局会議(永田邸)
- 5/10(土) 定例会(建物内)
- 5/17(土) 日福大50周年イベント準備
&クリーンボランティア
- 5/18(日) 日福大50周年イベント本番
- 6/7(火) 明治村視察バスツアー
- 6/19(木) 事務局会議(永田邸)
- 7/6(日) 定例会(半田ステーションホテル)

料はあっという間に品切れ。外のグルメコーナーも午前中持たず……でもうれしい悲鳴でした。

イベント終了後、スタッフ全員忙しかった2日間を思い浮かべ、ボランティアの企画が成功したときの喜びはこんなにも素晴らしいものなのかと感動したと思います。反省会・慰労会を9月7日会費制にて企画しましたところ倶楽部員はもちろん、イベントに出品や参加していただいた方々、及び広く各界の皆様方およそ100人集まっていただきました。皆さんからはほとんど満足のお話ばかり。本当にやってよかった。最後に来年はもっともっと充実した企画を考えようという声で締めくくりました。関係者の皆様本当にお疲れ様、ありがとうございました。



半田の名所発見 “紺屋海道（こんやかいどう）”



赤煉瓦倶楽部の第1回研修会（12月1日）として赤煉瓦建物の西を走る紺屋海道の探索を企画しました。当日はあいにくの雨にもかかわらず、24名が参加いたしました。ガイド役は8月に行われた建物一般公開に赤煉瓦倶楽部のTシャツに対抗し、「赤レンガ魂」とプリントしたTシャツを独自で制作していただいた市役所企画課職員の中村さんです。ですから今回の研修会サブタイトルが「赤煉瓦魂男と歩く紺屋海道」です。

小雨降る中、一行は赤煉瓦建物を出発。紺屋海道を南下し、秋葉講で説明を聞き、途中にある「米市せんべい」では参加したほとんどの人がせんべいをお土産に買っていきました。米市せんべいの道を挟んで向かいにある「ギャラリーはなくら」は、蔵をギャラリーと喫茶店に改造したお店で、なかなかいい感じのお店でした。（再発見！！）その後、薬師寺さんでお話を聞いた後、中村さんの粋な計らいで、紺屋海道を脇にそれ、小道を歩いていくと、そこにはカプトビールをトロッコで半田駅まで運んだレール敷きの跡がありました。敷地が斜めになっていて確かにその先には赤煉瓦建物があり倶楽部員の皆さんもビックリ！！次に向かったのは「酔の里」です。ここでは酔の里を見学するために向かったのではありません。実は未だ公表されていない中埜家のお宝が拝見できると聞き向かったのです。そこにはカプトビール工場を建設するとき書かれた棟札があり、建設に携わった方々の名前がずらりと書かれています。これを見た倶楽部員は再度ビックリ！！「今回の研修会はいいものを見せてもらった」と参加者のほとんどが大満足！最後に半田が誇る銘酒「國盛 酒の文化館」で利き酒を楽しみながら食事をし、親睦を深めました。

次回、研修会をお楽しみに！！



名鉄ハイキングコースの赤煉瓦工場跡

3月30日、日曜日は、つい2、3日前まで気を持たせていた桜の開花も間にあって、小学生からお年寄りまで最少に見積っても1,600人を超える訪問者を得て大盛況でした。名鉄の動員力、半田市のご指導、ハウジングセンターのご協力のもとでの総合力の成果とはいえ、倶楽部としてもそれなりの機能が果たせたのではないかと、今後の活動への手応えを感じました。一生懸命暗記して案内して頂いた学生さん、新しい試みだったティーコーナーで大奮闘されたおねーさまに、そして陰で支えていただいた皆様に「点数ではなく、感謝状を」。写真・絵画コーナーの照明、関連の歴史的展示物コーナーの充実等、多くの教訓を得たのも収穫だったと思います。更なる発展に乞うご期待。

明治村視察ツアー記（デンキブランを飲んだ！！）

明治村視察ツアー記（デンキブランを飲んだ！！）

中日新聞に、汐留火力発電所の煙突の基礎が出土しその基礎を明治村に復元、それを機に旧工部省品川硝子製造所内に「汐留バー」が開店、バーでは神谷傳兵衛氏考案のデンキブランが飲めるとの記事。早速、倶楽部の名誉顧問の明治村飯田館長と連絡をとり今回の企画となりました。名づけて「デンキブランを飲みに行きましょう会」。

6月14日（土曜日）赤煉瓦倶楽部半田のメンバー・半田市の職員の皆さん・建築士会の方々など総勢34名がチャーターバスで半田市を出発、行きの車中では、長谷川会長からのご挨拶に引き続き赤煉瓦倶楽部半田の役員会を開催しました。役員会では最初に平成15年度の総会実施予定の説明、総会と同時に開催予定の詩の朗読とギター演奏会の説明を行い、次に8月実施予定の第4回赤レンガ建物一般公開の内容を説明し了承を得ました。車中の目玉として、明治29年丸三麦酒が株式会社に改組された当時に発起人が一同に会した記念写真をはじめとするお宝発見のニュースを、馬場事務局長が興奮した面持ちで報告しました。事務局長差し入れの新製品「幻想」カップやビールを頂き、いい気持ちでお宝発見ニュースを聞いている間にバスは明治村に到着。

正門前では、飯田館長はじめ博物館の研究員の方々のお迎えに恐縮しつつ村内へ、現地参加の方と合流し、まずは第四高等学校物理化学教室で飯田先生から博物館明治村の開村の経緯や特徴などのレクチャーをして頂き、その後「ぞうさんチーム」と「ウサギさんチーム」に分かれて見学を開始、聖ヨハネ教会堂へ、教会堂のステンドグラスは最近復元されたもので、復元には我が倶楽部の平岡さんが全面的に携わりました。さて、今回の見学では、建物を外から見るだけでなく、建物内部をご案内いただき、建物建設当時の工夫や当時の生活など細かな説明のお陰で、過去に何度か来た明治村ですが、特に有意義でした。

一行は西郷従道邸・夏目漱石・森鷗外邸と順次見学し、東松家住宅そして明治万国博覧会のテーマ館で1900年に開催されたパリ万博の記録フィルムを鑑賞。動く歩道や当時の技術の粋を結集したパビリオンの荘厳さに感激しました。



ここで前半のコースを終了、第四高等学校武術道場の無声堂内で揃ってお昼を頂きました。飯田先生や斉木先生そしてボランティアのガイドさんと一緒に食事をしながらの歓談、半田市役所の方は飯田先生に「登録文化財」について熱心に質問をされていました。半田の旧カプトビール建物の文化財登録も間近かな？

食後は、先ず呉服座へ、先生のご案内で奈落の底から2階のカップル席まで、建物内部をくまなく拝見。次は半田市亀崎から移築された東湯へ、湯船は仕切りがあるものの男女が一つでした、こんなお銭湯に入りたい！！

最後に聖ザビエル天主堂へ、幸せ一杯の新婚カップルが天主堂から皆に祝福されながら馬車で旅立つところに遭遇、これを見ていた長谷川会長・石川副会長は「私も若ければ・・・」なんて思っていたのでは。

懇切にご案内いただいた飯田先生達とここでお別れし、早速今日のテーマである「汐留バー」へ。飲兵衛の男性陣は「デンキブラン」を、女性陣はデンキブラン入りの「生チョコ」を注文し、その摩訶不思議な味を堪能しました。

明治村での時間もあっという間に過ぎ帰途に。

本当に楽しくて有意義な一日でした、飯田先生はじめ明治村の研究員の皆様、ツアーの企画と準備をいただいた事務局の皆様、ありがとうございました。

次は総会と8月の特別公開でお会いしましょう。



— 特集 —

妻木頼黄（つまきよりなか）とはどんな人？

事務局長馬場信雄

我らの旧カプトビル赤煉瓦建物を設計した妻木頼黄とはどんな人物だったのか？半田市が発行しているパンフレットには「辰野金吾、片山東熊と並び明治建築界の三大巨頭の一人と言われ、大蔵省営繕の中心人物として数多くの官庁建築を手がけた。」と掲載されています。しかし、彼の出生は？どうして三大巨頭の一人といわれるほどまでになったの？・・・我らの妻木頼黄についてももっともっと知りたいと思っていました。その疑問に答える書籍が昨年6月発刊されました。「著書北原遼三郎、「明治の建築家・妻木頼黄の生涯」発行株式会社現代書館、2200円」。興味のある方はぜひ一読ください。以下に出生、本格的に官庁建築に取り掛かる前までの経過等について少々触れてみます・・・

江戸赤坂築地台町、安政6年（1859）1月21日、禄高千石の旗本・妻木源三郎に男の子が生まれた。名は久之丞。当時は安政の大獄に代表される騒然とした世情下。徳川の世が続いていれば旗本として安定した暮らしが約束されているはずであったが・・・父源三郎はコレラに罹り死去。突然当主を失った妻木家は動揺。この時頼黄3歳。世情は倒幕騒ぎの中、妻木家第12代当主・妻木頼黄が誕生。美濃国土岐郡妻木郷（現土岐市）の地頭が家系の始まりとされる妻木家は代々「頼」の文字を受け継いだ。「頼黄」もそうであった。家督を継いだものの禄高35石、生活は底をつく赤貧の日々。明治5年母が、翌6年姉が相次いで他界。頼黄はひとりぼっちになった。その後工部省電信寮で電信術を学ぶも気乗りがせず、いっそ洋行して勉強したいと決心し明治9年単身渡米した。帰国後工部大学校（現東大）に入るも世界の建築界はアメリカ、ヨーロッパを軸に進んでいることを知らされ、再び渡米。明治15年コーネル大学へ入学。日本人として二人目の卒業で建築学士の称号を得た。明治18年帰国。東京府の官吏に採用され建築御用掛となった。ここで日本近代建築の父といわれ、コンドルの後継者としての地位を確立し工部大学校教授をしていた辰野金吾と運命の出会いをすることになる。当時頼黄27歳。辰野32歳。これ以降傑出した才能を持つ二人がライバルとして再三火花を散らすことになる。

・・・今回はこれまで！！続編は乞うご期待！！

倶楽部ホームページの URL 変更しました



<http://www.akarenga-handa.jp/>

覚えやすい URL でしょ！！色々な人に紹介してください。

広告募集

当倶楽部のホームページや機関紙に広告を掲載していただける企業や団体を募集しています。

1 枠 年間 5,000 円

集まったお金はホームページの管理費や機関紙の発行費用に充てます。



全愛知県赤煉瓦工業協同組合
〒447-0863 愛知県碧南市新川町3丁目85番地
TEL・FAX (0566) 41-1276
E-Mail : office@akarenga-aichi.or.jp
WWW : http://www.akarenga-aichi.or.jp

リサイクルガラス
ガラススタジオ青山

吹きガラス、丸ぼ玉教室

半田市青山4-23-10 TEL.0569-28-8016

編集後記

この倶楽部も生まれ変わって早や1年が経ちます。以前に比べ事業も頻繁に行うことができるようになりました。これも行政と手を組んで官民一体となった事業展開が良かったと思います。

(D)